沢池小だより

茨木市立沢池小学校　　令和４年（2022 年）７月８日　**７月第２号**

沢池小学校 コミュニティスクール

コミュニティスクールとは、「学校運営協議会」を設置した学校のことです。学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 47 条の 5）に基づき、全国の学校でコミュニティスクール化が進んでいます。

茨木市では今年度、全小中学校のコミュニティスクール化をめざしており、前年度までの「学校協議会」を母体に「学校運営協議会」を発足させることとしています。沢池小では７月２日（土）に第１回目の会合を持ち、本校の教育活動の基本的な指針となる「グランドデザイン」（裏面参照）についてご審議いただき、ご承認を得ましたことをここにご報告します。

◇教育目標「未来を拓く子どもたちの育成」

今の子どもたちが将来職に就くころ、今ある職業の半分は消滅し、今はまだない新しい職が登場しているだろうと言われています。職業に限らず、多様な価値観、不確定な情勢、社会構造の変化など、今までの価値観が通用しない時代へ加速度的に移り変わっていくと言われます。

2022 年日本では成人年齢が 18 歳となりました。2030 年気候変動の分岐点まで 10 年を切っています。2045 年には人工知能（AI）が人の能力を超えるとも（シンギュラリティ）。

このような時代、今の小学生に対し学校ができることは、目に見える学力の背景となる、学びに向かう力（非認知能力）を育むこと。これを糧に不確定な未来に臆せず、仲間とともに切り拓き、肯定的に生きていってほしい。そういった願いをこめて、本校の教育目標を「未来を拓く子どもたちの育成」としました。

この教育目標を補完するものとして、創立以来の校訓、校訓を平易かつ非認知能力育成の視点から言い表した「めざす子ども像」、教職員側の「努力目標」を設定します。これまでも学校朝会、学校だより等でお伝えしてきたことですが、あらためて「グランドデザイン」として整理しました。

学習指導や評価、行事や取り組み等のふり返りを通じて、非認知能力の育成を意識した授業づくりや、点数や形に残らない要素の評価は２年前の学習指導要領改訂から継続しています。

また、校内組織（4 つの校内委員会、その他の各種委員会）で多方面から児童に働きかけ、児童の活動を支援・指導しています。沢池小の特色として、児童会組織に「縦割り委員会」があります。（他校にはあまり見られない委員会です。）コロナの時期も代替行事に腐心してきましたが、異学年の子どもたちの活動を通して成長を促します。その他の児童会組織も、それぞれの役割を果たす過程で、多様な学びがあり、よりいっそう自主的に子どもが子どもたちの前に立つ場面を増やそうとしています。

学校／保護者／地域が連携した取り組みからも、児童の健やかな育ちと学びをはかります。沢池小の特色として、PTA 環境美化活動、子育て交流会などがあります。その他にも表だって見えにくい活動も含めて、さまざまなご支援をいただいてきました。

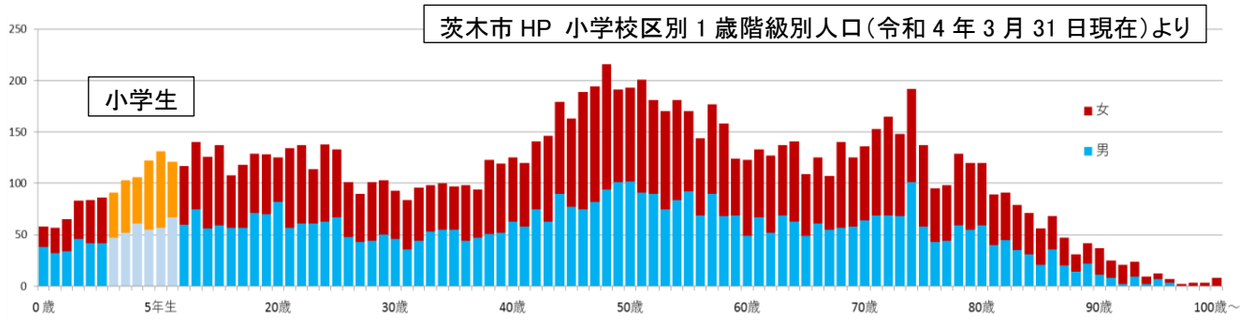
登下校安全見守り隊「ガーディアンズ」は結成 20 年、放課後子ども教室「わくわく」も茨木市内ではいち早く活動を始めたとお聞きしています。沢池小の子どもたちのために、多くの方々のご協力・ご支援をいただいていることを、あらためて感じます。

学校運営協議会の場で、次のようなご意見・ご感想をいただきました。

- 今の沢池小の子どものようすは？　→元気で素直、（コロナ禍も影響しているか）年々幼くなっていると感じる。指示待ちでなく自分で考えて動くように（保護者、教師も手をかけすぎだろうか？）。
- わくわくは初めパニックだった。親とのかかわりが薄い子もいるのか、自分の話を聞いてほしい、かまってほしい。怒られ慣れていない。（何がいけないのかわかっていなかった。）
- グランドデザインにも「あいさつ」とあるが、わくわくを見に来る先生からまず「あいさつ」を。（耳の痛いご指摘でした。）
- 体力向上は授業だけでなく、学校生活の中でも育んでいってほしい。
- 評価がたいへんになったことは（協議員の娘さんが教員で）聞いている。資料に基づいた評価とともに、その場で見たときの評価もたくさん声かけしてほしい。
- 縦割り活動は小１のころは上級生にあこがれ、高学年になるとむずかしさに気づく。近所でも異学年でよく遊んだり、めんどうを見ていた低学年の子がもう大学生になったと、大人になった今でもつながりがある。
- エンパワメント（身を守るワーク）を３年、４年、沢池小では保護者もやっている。自分のことを大事に、自分が好きと言える人になってほしい。
- 「ふりかえりを書く」ことで何ができたか、できていないか、子どものモチベーション向上につながる。
- いろいろな取り組みに感謝。無理のない範囲でやっていってほしい。

沢池小学校校区の人口構成を見ると、今の５年生から年々児童数は減少傾向にあり、０歳児は半数以下になっています。子どもたちが将来大人になって（一時的にはここを離れても）いずれはこの地域で活躍してほしいというのは、学校運営協議員みなさんの思いです。そのためにどんな学校づくりをしていくのか、今後の検討課題として共有しています。

茨木市 HP　小学校区別１歳階級別人口（令和４年３月 31 日現在）より



令和４年度　沢池小学校　グランドデザイン

R4.7.2 茨木市立沢池小学校

教育目標　未来を拓く子どもたちの育成

◇児童の 10 年後、20 年後の予測不能な未来でも必要な非認知能力を、小学校で育みたい

＜教育目標を補完するために、めざす子ども像・努力目標を設定＞

めざす子ども像

～創立以来の 3 つの校訓は非認知能力の育成を志向しており、それらを平易な表現で～

- 自ら考え、行動する子ども　【創造】
- 力を合わせて、ともにのびる子ども　【協調】
- 最後までやりとげる子ども　【持久】

努力目標：互いのちがいを認め合い、
自信を持って表現できる子どもの育成
～非攻撃的自己主張（アサーティブ）の獲得～

茨木っ子プラン　ネクスト 5.0 と連動
- これからの社会を生きる力（非認知能力）
  ゆめ力：未来に向かって、努力できる力
  自分力：自分と向き合い高める力
  つながり力：他者を思いやり、つながる力
  学び力：興味関心を広げ、意欲的に学ぶ力
- ともに学びともに育つ教育
- 確かな言語力を育む
- いじめ不登校対策を充実させる

＜子ども像や努力目標を具現化するための、組織的な取り組み＞

人権・支援教育

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認め合い、豊かな人間関係を結ぶ子どもたち」
3 カ年計画で「障がい理解教育」に取り組む。

学力向上

「自分の考えたことを他者に伝えられる表現力～書く力」
ふりかえり活動の推進、組織的な研究体制と研究授業、学習評価について継続的な研究と共有

生活指導
- 安心して通える学校づくり
- あいさつ・授業規律・清掃活動の共通実践
- 道徳教育の推進
- 児童が主体的に取り組む活動
- 縦割り異年齢の活動により児童の自己有用感を高める

体力向上
- 児童の生きる力を支える、体力向上につながる取り組みや活動の研究・推進
- 体育的行事の工夫と改善
- 体育の授業における評価のみとり方の研究

＜その他、教育目標を具現化する、学校のさまざまな取り組み＞

保健：健康に過ごすための生活習慣の定着
食育：児童自らが健康の大切さを知り、望ましい食習慣を身につける
アレルギー対策：アレルギーのある児童にとって安心、安全な給食や環境の提供
図書：読書好きな子どもの育成，図書館利用指導の徹底
情報：児童の情報活用能力の育成カリキュラム（スキルマップ）の作成と実践
儀式行事：入学式、卒業式等、当該学年のみならず、他学年の成長を促すよう企画する
芸術行事：校内音楽会の検討と運営、芸術鑑賞会の内容検討と渉外
児童会・各種委員会　児童自らが学校生活の課題をとらえ、望ましい学校づくりに参画する
縦割り活動（1～6 年生混成の小集団で体力作りや校内清掃）ほか、異学年交流の推進

＜保護者・地域・外部と連携した取り組み＞

学校運営協議会
PTA 諸活動　環境美化活動　子育て交流会（保護者と教職員）
放課後子ども教室”わくわく”
登下校見守り隊ガーディアンズ
人形劇サークル”かたつむり”
沢池小学校区みんなで学ぼう人権の会
青少年健全育成運動協議会
沢池地区公民館
SC・SSW、教育委員会、各種相談機関、保幼小中連携

※　令和 4 年度沢池小学校グランドデザインは、令和 4 年 7 月 2 日第 1 回沢池小学校学校運営協議会にて承認されました。
次年度以降は、前年度のうちにグランドデザインの更新を行い、年度初め 4 月より活動を始めていく予定です。

【令和 4 年度　沢池小学校　学校運営協議会の構成】
沢池小 PTA　青少年健全育成協議会　沢池公民館
青少年指導員　主任児童委員　沢池小校区人権の会　学識経験者
沢池小校長・教頭・首席
（以上 10 名）